新島の火山活動解説資料（平成 25 年１月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・変色水の状況（図１～図４）

17 日に実施した新島で最初の変色水の調査観測で、間々下浦海岸付近、羽伏浦海岸付近及び神渡鼻東側の海岸付近で明るい緑青色の変色水を確認しました。

・噴気など表面現象の状況（図５～図８）

式根（丹後山の西南西約４km）に設置してある遠望カメラによる観測では、丹後山山頂部に噴気は認められませんでした。

17 日～18 日に実施した調査観測では、向山付近の表面温度[1)]は、前回（1992 年 10 月 21 日）の観測と比べて特段の変化は認められませんでした。また、変色水の調査観測で、間々下海岸で湯気が出ているのを確認し、同海岸で周辺よりやや温度[1)]の高い部分を確認しました。

・地震や微動の発生状況（図９※－①②、図 10※）

新島付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。

・地殻変動の状況（図９※－③）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

１）赤外熱映像装置により観測しています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年２月分）は平成 25 年３月８日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高)』『数値地図 25000（行政界・海岸線)』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号)。

図１　新島　現地調査対象地点（青色の枠線は変色水が確認された場所）

図２　新島　間々下浦海岸付近の変色水の状況
石山展望台（図１の①）から撮影
（2013 年１月 17 日撮影）
明るい緑青色の変色水（赤色の枠線）が確認しました。

図３　新島　羽伏浦大海岸付近の変色水の状況
大峰山展望台（図１の②）から撮影
（2013 年１月 17 日撮影）
明るい緑青色の変色水（赤色の枠線）が確認しました。

図４　新島　神渡鼻の東側海岸付近の変色水の状況
島の南東側（図１の③）から撮影
（2013 年１月 17 日撮影）
明るい緑青色の変色水（赤色の枠線）が確認しました。

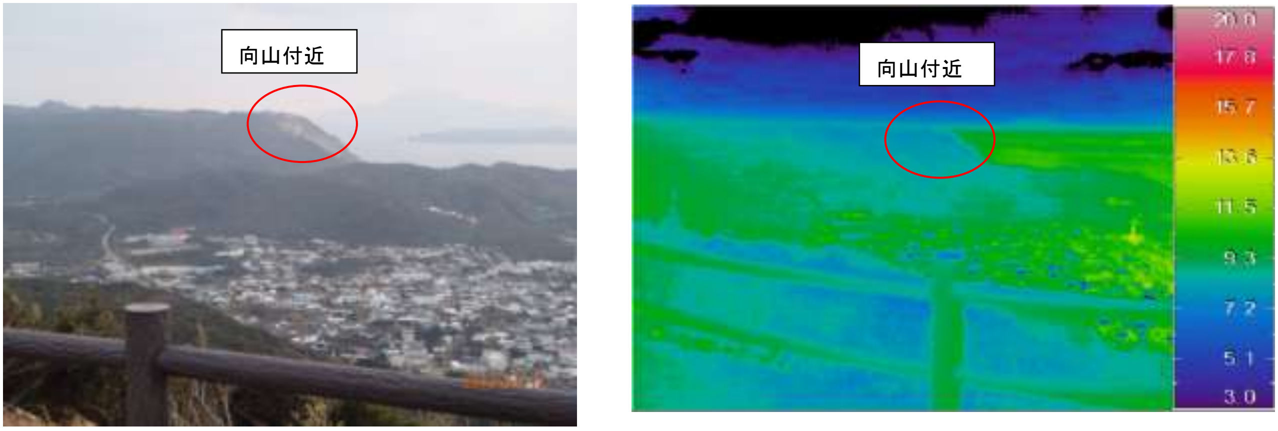

図５　新島　向山付近の表面温度[1]の状況
富士見峠展望台（図１の④）から撮影
赤外熱映像[1]（右）と可視画像（左）（2013 年１月 17 日　16 時 01 分撮影）
地熱地帯は確認できませんでした。

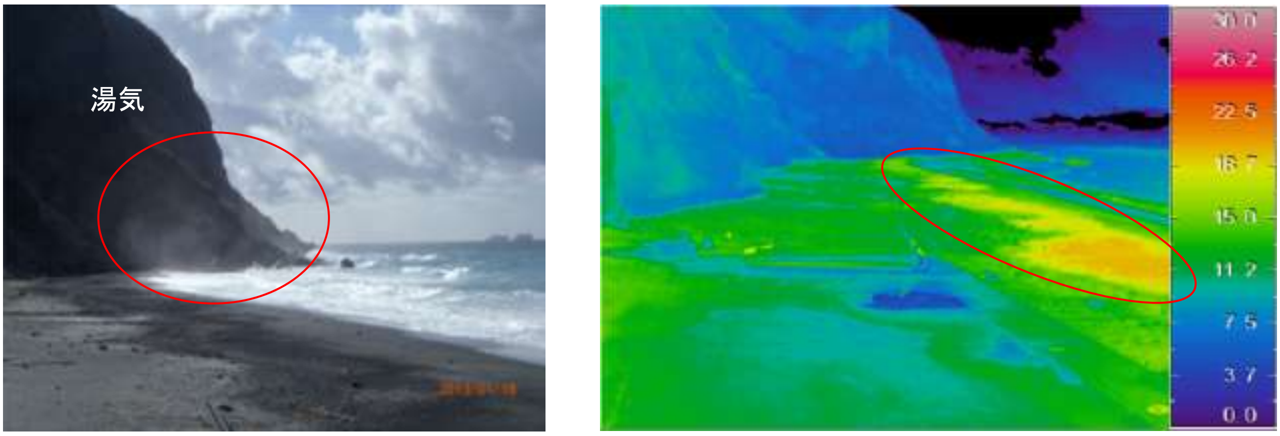

図６　新島　間々下温泉下の湯気の状況
間々下温泉下（図１の⑤）から撮影
赤外熱映像[1]（右）と可視画像（左）（2013 年１月 18 日　11 時 06 分撮影）
可視画像（左）：湯気（赤色の枠内）を確認しました。
赤外熱映像[1]（右）：波打ち際（赤色の枠内）で、周辺より温度の高い部分を確認しました。

図７　新島　観測点配置図
GPS 基線は図９※の③に対応しています。

図８　新島　丹後山山頂部の状況
（１月 31 日、式根遠望カメラによる）

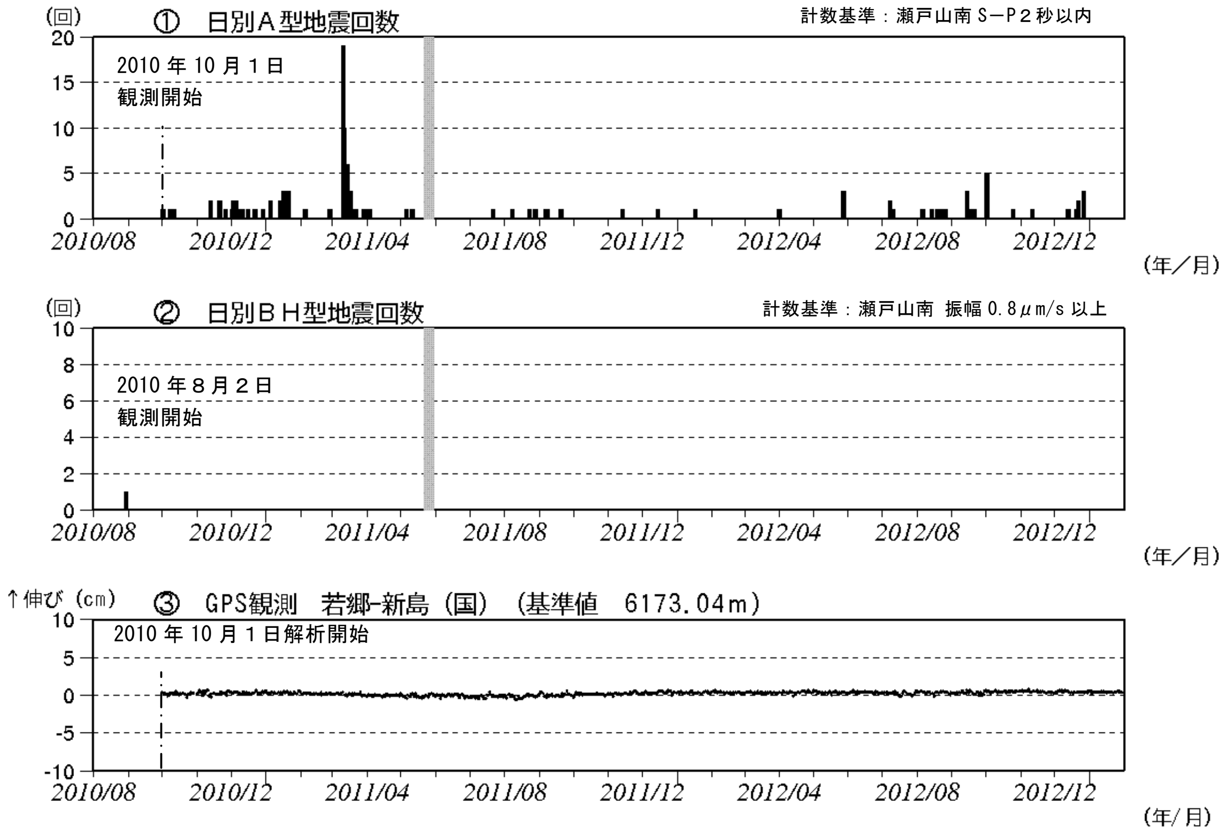

図９※　新島　火山活動経過図(2010 年８月２日～2013 年１月 31 日)
①②新島周辺の日別地震回数　図の灰色部分は機器障害のため欠測。
③ GPS 連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院
③は図７の GPS 基線③に対応しています。

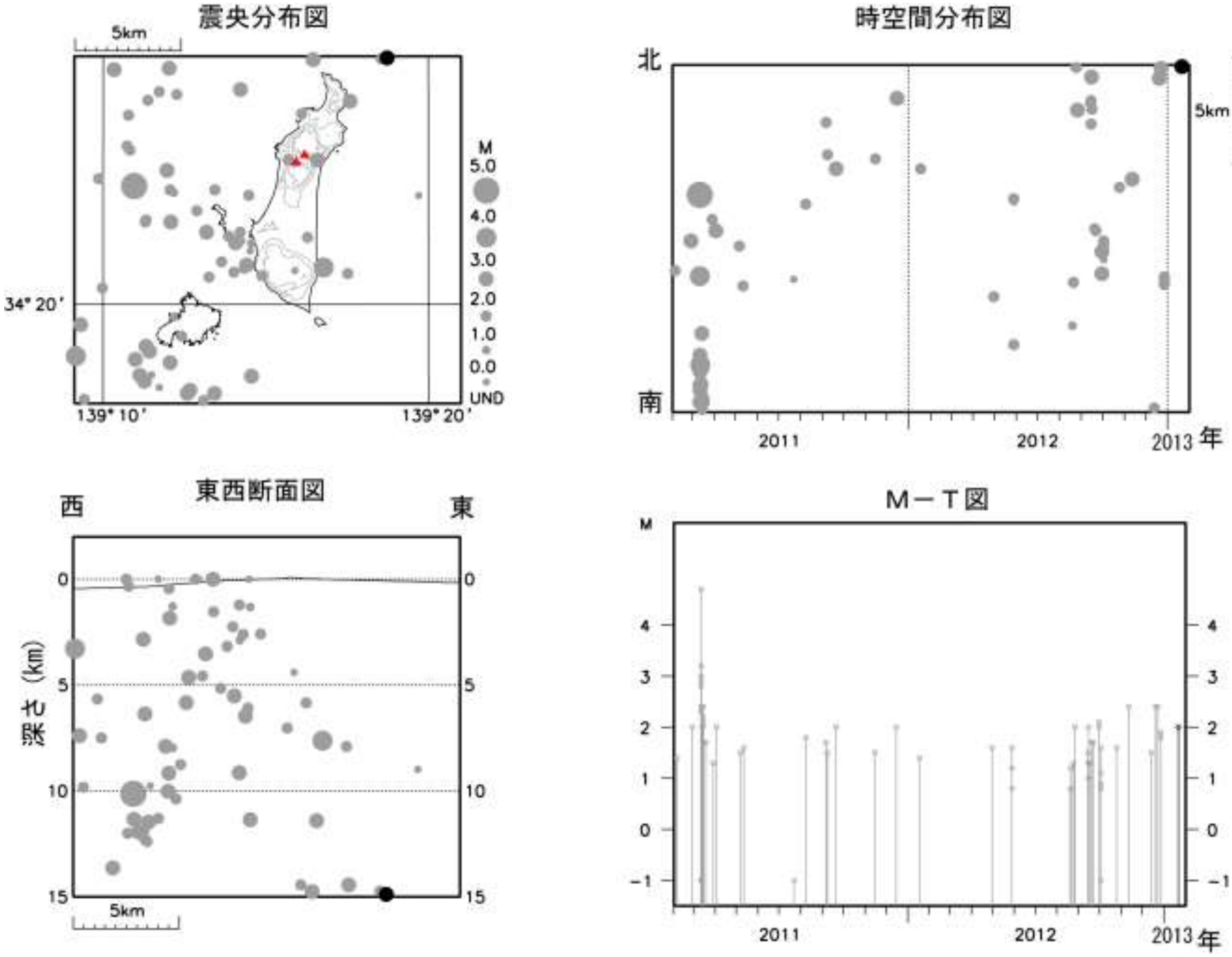

図 10※ 新島　広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年２月１日～2013 年１月 31 日）

●：2011 年２月１日～2012 年 12 月 31 日　●：2013 年１月１日～１月 31 日

Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。